

令和4年度学校評価報告書

学校名（廿日市市立宮園小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者 評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
確かな学力	○基礎・基本の 定着・活用 ◎主体的に課題 解決に取り組む 力の育成	・特性や進度等 に応じた学習(自 由進度学習) ・知識を活用・発 揮する協働的な 学びの実践 ・興味関心に応 じた課題に取り 組む機会の設定 (個人探究学 習・自主学習等)	・自ら進んで学習に取り 組む児童の割合(アンケート)	90% (93%)	93.2	93.7	104	A	・自由進度学習・個人 探究学習を両輪とし て自立した学び手の 育成に向けて取り組 んできた結果、知識・ 技能、主体性につい ては成果が出ているが、 思考判断表現につい ては依然として課題 がある。年間を通じ、 単元のねらい・育てた い資質・能力を明確に した授業改善を進め ていく必要がある。	・特色ある取組を 行ってきた成果が 見られる。質問紙 等の結果や実際の 児童の学びの姿か ら、宮園小学校は 「学ばせたい学 校」であると感じ る。学校評価保護 者アンケートの否 定的な回答につい ては、わずかな割 合であるが、何に ついて満足できな いのかを捉えてい く必要がある。	・学力の三要素の中で、知 識・技能と主体的に学習に 取り組む態度については成 果が見られる。思考力・判 断力・表現力については前 述した2つの資質・能力が なくては育成・伸長につな がらないものと考えてる。 引き続き、主体的な学びを 促す教育活動を充実させる ことで自立した学び手の育 成につないでいきたい。そ のために今年度の研究の成 果と課題をふまえ、持続可 能な研究体制の構築を確立 していく。
			・廿日市市学力定着状況 調査における思考判断表 現の目標値を達成する児 童の割合	68% (67%)	-	50.0	73.5	C			
			・課題の解決に向けて、 自分で考え自分から取り 組む児童の割合(全国学 力・学習状況調査児童質問 紙)【市共通項目】	85% (85.4 %)	85.7	-	100	A			
豊かな心	○規範意識・相 手意識の醸成 ◎自己有用感の 向上・他者理解 の促進	・相手や場に応 じた挨拶・言葉 遣いの指導の徹 底 ・多様な他者と 協働する活動の 場づくり(いい ところ見つけ・ 縦割り班掃除 等)	・設定した期間における 児童の家庭学習の目標時 間の達成率《小中共通項目》	95% (92%)	95.4	96.1	101	A	・あいさつについ ての肯定的評価は児童 が92.6%、保護者が 79.2%と依然として 数値が乖離してい る。あいさつ名人や あいさつ運動等、あ いさつに係る取組を 教師主体ではなく、 子どもを主体として 学校全体で取り組ん でいながらあいさ つの輪を全体に広げ ていきたい。	・来年度取り組ん でいこうとして いる自治活動は、 どのように自己 肯定感につなが るのかを整理し ていくことが大 切である。 ・あいさつにつ いては以前に比べ 成長を感じる。	・来年度は学級活動や学校 行事を子どもに委ねたり任 せたりしながら企画・準 備・実行させていきたいと 考えている。 ・自己肯定感を高めるため の取組として振り返りの充 実を図っていく。自己評価 や他者評価を取り入れなが ら、褒めることを積極的に 取り入れていく。特に子ど も同士で褒め合う場を設定 し、自分の頑張りを認め合 うことで居場所づくりにつ なげていく。
			・相手や場に応じた言葉 遣いができる児童の割合 (アンケート)	80% (79%)	96.0	96.0	120	A			
			・「自分から進んであいさ つできる」児童の割合《小 中共通項目》(アンケート)	90% (93%)	89.7	92.6	102	A			
			・自分には、良いところ があると答える割合(アン ケート)	90% (91%)	86.9	89.6	99.6	B			
			・「困っている友達がいた ら声をかけたいと思う」 と答える児童の割合(アン ケート)	90% (96%)	96.6	95.4	106	A			

健やかな体	○生活・健康に関する自己管理能力の育成	・体力づくりの推進（外遊び・学級レク等） ・新型コロナ対策の徹底	・体を動かすことが好きという児童の割合（アンケート） ・体温チェックカードを提出する児童の割合	85% (85%) 100% (-)	84.0 98.0	98.9 99.0	116 2名	A B	・体を動かすことについては大きく改善された。担任と児童、異学年交流等、工夫しながらみんなで一緒に遊ぶ場を意図的に設定した結果であると捉えている。	・体を動かすことについては大きく改善できているので今後も続けていってほしい。	・来年度も計画的にロング昼休憩での異学年交流の場を設定していく。 ・体温チェックカードについては、感染状況と市教委の通知をふまえながら、変更があった場合には、その都度、保護者に知らせていく。
信頼される学校づくり	○服務規律の確保 ○働き方改革の推進	・教職員の規範意識の更なる確立 ・相談体制の充実 ・会議、研修、行事の精選 ・教職員のワークバランスの充実	・月一回の服務研修を確実に実施し、未然防止に努める。(年間12回) ・「宮園小には相談しやすい雰囲気があると思う」と答える教職員の割合（アンケート） ・時間外在校時間月平均45時間を超える教員 ・子どもと向き合う時間が確保されていると考える教職員の割合（アンケート）	12回 (12回) 100% 0% (-) 90% (91%)	7回 92.3 35.0 5人 92.3	12回 100 28.5 4人 92.3	100 100 28.5 102	A A D A	・「相談しやすい雰囲気」については前回より向上、100%に達した。今後も全体を俯瞰しながら風通しのよい職員室づくりを目指す。 ・時間外勤務については前回より改善傾向にある。分掌の見直しや行事の精選等を積極的に行い、来年度につなげたい。	・時間外勤務45時間を超える教職員が0になっただけではない。限られた時間の中でしっかりと人材育成に取り組んでいくことを考えていってほしい。 ・不登校等の問題は学校だけでなく、関係機関としてしっかり連携していってほしい。	・本校の教職員は働きがいを感じてはいるが、時間外勤務については依然として課題がある。優先順位をつけながら、計画的にまた連携を密にして仕事を進めていく必要がある。また、進捗管理を各部の主任が確実にやっていくことが大切である。来年度も相談しやすい雰囲気づくりに努め、対話を通じた連携を積極的に行っていく。